



北日本支部医学検査学会 開催迫る！！



一般社団法人岩手県臨床衛生検査技師会 会長 安保 淳一

第3回を迎える北日本支部医学検査学会を皆様のご協力とご支援のもと開催できますことを心より感謝申し上げます。

さて、本学会では学会テーマを「臨床検査を探求する」～イーハトーブから臨床検査を見つめ直す～と掲げ学会企画や準備を進めて参りました。今日、医療の高度化と細分化が進む一方、患者中心の医療の展開がなされ多職種間の連携・チーム医療、医療安全などの推進が現代医療において重要となっている事は周知の事実であり、臨床検査分野においてもその一躍担うことが求められております。また、疾病の解明、診断においても臨床検査の果たす役割は大きく、新たな検査法や診断技術などが求められております。そうした背景から学会テーマを「臨床検査を探求する」と掲げました。

また、本学会では特別企画を次頁のように企画致しました。

一般演題では117題の演題を登録いただきました。当県からも32題と多くの演題を登録いただきました。改めましてご登録いただきました会員並びにご協力いただきましたご施設様に対しまして御礼申し上げます。学会情報交換会では“いわて”ならではの美味しい肴やお酒とアトラクションを用意して皆様に楽しんでいただけるよう企画を考えております。現在、実行委員会では学会準備も最終段階に入っております。今後とも皆様のご支援とご協力の程よろしくお願い致します。

最後になりますが、2日間の学会を通しまして、これからの臨床検査のあり方や将来像について考えることができましたら幸いと存じます。岩手県一丸となって学会に取り組み学会を成功裏に導きましょう。多くの皆様のご参加を切にお願い申し上げます。

(いわて)

第3回 日臨技北日本支部医学検査学会

テーマ：臨床検査を探求する

～イーハトーブから臨床検査を見つめなおす～

会 期 : 平成 26 年 11 月 22 日(土) 受付時間 8:45～15:00
平成 26 年 11 月 23 日(日) 受付時間 8:45～13:00
(アイーナ開館時間 は 8:45 となっております)

会 場 : いわて県民情報交流センター「アイーナ」

学会参加費 : 会員 5000 円 / 非会員 15000 円
情報交換会参加費 5000 円

【11月21日(金)】
18:00～20:00

ナイトセミナー

- 講演 1：卵円形脂肪体と大食細胞
- 講演 2：体腔液に一般検査は必要か？

【11月22日(土)】
9:30～10:50
11:00～12:00
12:00～13:20

一般演題

特別講演 I

臨床検査技師業務パラダイムシフト

ランチョンセミナー

- ◇ ウィルス駆除の先を見越した肝臓病の診療
- ◇ 糖尿病検査における診断マーカーについて
- ◇ 個別化医療 (PHC) の現状と将来
- ◇ 病理検査における遺伝子解析の有用性
- ◇ アンチバイオグラムの有効性について
- ◇ 最新の微生物迅速検査法で見えてくる感染症診断の展望
- ◇ よくわかる 軟部腫瘍の超音波検査
- ◇ 新しい知覚・痛覚検査ペインビジョンの原理と運用
- ◇ 新規敗血症マーカー「プレセプシン」の測定意義について
- ◇ 貧血の Total solution Disease State Management

13:30～14:30

技術セミナー

- ◇ 異常値・極端値の見方・考え方
- ◇ 1) 尿沈渣検査法 2010 を踏まえて
尿沈渣の見方・考え方から報告まで
- ◇ 2) 髄液検査法 2002 の課題と今後の展望
- ◇ 検査結果説明・グラム染色編～形態を文章に～

(い わ て)

- ◇ 活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT) の標準化
～長い道のりにむかって～
- ◇ 輸血検査の現状と教育活動について
- ◇ 免疫組織化学染色 ～基本から応用・最近の話題まで～

14 : 50～16 : 20

シンポジウム

テーマ：臨床検査を探求する

1. 生化学検査室の今後の在り方・方向性について
2. 検査部門における保健所と医療機関の連携
3. 輸血検査部門の施設間連携についての重要性
-特に血液センターの役割について-
4. 北臨技事業における血液一般染色調査報告
5. 医療に貢献するためのイノベーション

特別講演Ⅱ

1. 睡眠時無呼吸の治療と臨床検査の役割
2. 睡眠時無呼吸症候群の診療における臨床検査技師の役割

特別講演Ⅲ

化学療法の進歩と臨床検査に望むもの

(※シンポジウム・特別講演Ⅱ・Ⅲは同時進行となります。)

17 : 00～18 : 00

式典ならびに表彰 (会場：ホテルメトロポリタン)

18 : 30～20 : 30

情報交換会 (会場：ホテルメトロポリタン)

【11月23日(日)】

9 : 00～11 : 20

一般演題

11 : 30～13 : 00

教育講演

- ◇ 形態検査における細胞の見方のポイント
～悪性細胞を中心に～
- ◇ 定量検査法のバリデーションの必要性和有用性
- ◇ 薬剤耐性菌などの遺伝子検査
—医療機関検査室と秋田県健康環境センターの連携について—
- ◇ 1) 頸動脈プラーク診断と治療戦略
2) フットケア診療における生理機能検査の果たすべき役割
～血管無侵襲検査法を駆使した足病変の評価から術中支援まで～
- ◇ 「事例に対応するために」
 - 1) 輸血医療のアメとムチ ～医療安全の視点から～
 - 2) 小児(新生児)のための輸血検査と輸血製剤の選択

13 : 10～13 : 55

日臨技企画

臨床検査技師等に関する法律改正～検体採取など～

※22日には「高校生向け進学支援ガイダンス」も企画されています。

* 現時点で予定されているプログラムです。

日程・プログラム等は、後日配布される学会抄録で再度ご確認ください。

平成26年度 公益事業 大腸がん予防啓発活動 「あっぴりレーマソン大会 2014」

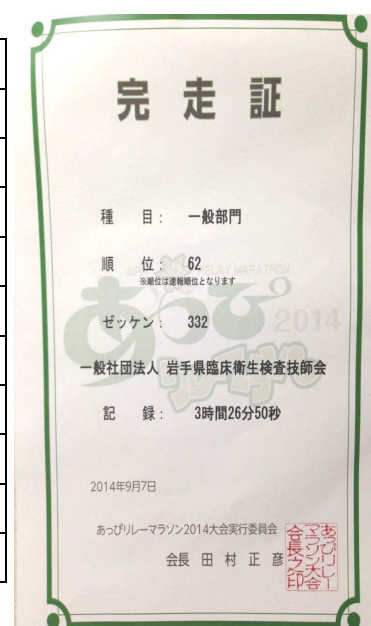
盛岡地区会長

公益財団法人いわてリハビリテーションセンター 川村 将史

去る9月7日(日)に盛岡地区技師会を中心として公益事業：大腸がん予防啓発活動の一環で「あっぴりレーマソン大会 2014」に参加してきました。11名のランナーと大腸がん予防啓発スタッフ10名の総勢21名もの多くのスタッフに集まっていただきました。42.195キロを一周2キロのコースで21周して競われる大会でした。岩手県臨床衛生検査技師会のビブスを作成し、胸には「STOP!大腸がん」を掲示して、大会参加者にPRをいたしました。また、栄研化学様よりボールペン73本を提供していただき、大会本部や、大会参加者に配布しながら、大腸がん予防をPRいたしました。その結果、大会本部から会場全体に「大腸がん予防PR」のアナウンスを流していただくことができ会場全体にPRすることができました。また、走者で日赤の岩崎さんと医大の千田さんによる「ランナーの主張」ができるブースにおいても、「STOP!大腸がん」のPRをテレビ放送に向けて実施することができました。放送することになれば、いわて県民全体へのPRにもつながると考えております。また、ゴールの際には「岩手県臨床衛生検査技師会」ののぼりと、「がん予防啓発活動」ののぼりを持って走者全員でゴールいたしました。なお、これらの勇姿は9月23日にテレビ岩手の特集番組において放送されました！

今回のさまざまな教訓を生かし、次年度の公益事業に繋げていけたらと思っております。最後になりますが、今回参加して頂いた、安保会長をはじめ、多くの走者としてのスタッフ、大腸がん予防啓発スタッフの方がたに感謝いたしますと共に、スタッフを快く送り出していただいた、各施設の技師長や現場の皆様には感謝いたします。この場を借りてお礼いたします。ありがとうございました。

| ランナー名 | 施設名 | スタッフ名 | 施設名 |
|--------|--------|--------|-------|
| 川村 将史 | リハセン | 安保 淳一 | 医大 |
| 浅沼 匡介 | 日赤 | 岩淵 義文 | 胆沢病院 |
| 吉田 雅彦 | フィリップス | 行森 良一 | 医大 |
| 山内 英寿 | DPR | 柳本 実 | 医大 |
| 三田 隼人 | 市立病院 | 井上 幸男 | 日赤 |
| 武田 一成 | 日赤 | 畠山 裕司 | 医大 |
| 大橋 航太 | 日赤 | 小野寺 奈緒 | 医大 |
| 千田 友美 | 医大 | 千葉 あゆみ | 中央病院 |
| 遠藤 謙太郎 | 医大 | 千葉 薫 | 対がん協会 |
| 岩崎 沙由里 | 日赤 | 下川 波歩 | 医大 |
| 菊地 英岳 | 遠野病院 | | |



(い わ て)

あっぴりレーマラソン大会 2014・・・大いに盛り上がる(´▽`)

岩手県臨床衛生検査技師会 副会長
岩手県立胆沢病院 岩渕 義文

9月7日(日)、初秋も近い安比の高原に今年初めて参加をする一般(社)岩臨技の会員のメンバーが早朝に集まりました。朝は少々寒いくらいでしたが、日中は帽子がないと日に焼ける暑さでした。今年で21回になる「あっぴりレーマラソン」は355チーム(3,071人)のエントリーで開催され、それに各チームのサポーターが参加され、大会会場は大勢のヒト、ヒトでした。今回一般(社)岩臨技として、盛岡地区会長の川村将史さんの企画ならびに計画をお願いして、目立つようにスタッフベスト(ピンク色:ビブス)にして、そこに公益事業の大腸がん予防啓発活動のネーミングを入れ、参加者が全員でPRして会場を歩きました。

42.195キロを1周2回のコースを21周して競い合う大会です。今回(社)岩臨技のメンバーは一般部門でエントリーで11名で大会に臨みました。若さと平日頃のトレーニングで我がチームは3時間26分50秒で62位でみんな大変驚いていました。2キロを8分台~10分台で走っていたようです。ウォ!すごいね。

今回は盛岡地区の会員のみなさんには大変お世話になり、バーベキューの準備やら飲み物の準備やらお世話になりました。大会終了が14時30分であり、その後に参加者全員でご苦労さん会も開き、みんなで完走したことを喜び合いました。ありがとうございました。(*^^*)
また、来年も計画をして参加するような話しまで出て、盛り上がりました。

公益事業に参加されたみなさん、お疲れ様でした。ヽ(´ー`)ノ



南部地区研修会に参加して

岩手県立千厩病院 安藤 隆子

去る10月10日(金)、第2回岩臨技南部地区技師会研修会が県立磐井病院で開催されました。はじめに、「ISO15189 について」と題してシスメックス学術部の方に講演をいただきました。ISO15189 は臨床検査室に特化した国際規格であり、現在 74 施設が取得しているそうです。ISO15189 導入にあたり、認定費用が 300~350 万円とコストがかかること、文書によるマネジメントシステム構築が求められておりスタッフの作業が大変だということなどデメリットがありますが、その一方で、検査業務の標準化、継続的な改善、スタッフの意識向上とメリットがあるとわかりました。PDCA サイクルを回し、問題の根本原因を追及する。そして、再発防止のために改善していくことは、認証取得にかかわらず、日常業務において役立つと思いました。

次に、「ケニアの医療事情と臨床検査の現状」と題して県立磐井病院 塩尻先生に講演をいただきました。東アフリカ・ケニアの感染症は、マラリア、腸チフス、結核、HIV が主なもので、外来患者の 50% 近くはマラリア感染(5 歳以下の感染が多い)です。マラリア検査の Gold Standard はやはり血液塗抹のギムザ染色顕鏡ですが、検査閾値や技師の技量、アーチファクトによる偽陽性などに左右される部分もあるようです。また、ケニアの HIV 感染は、300 万人以上で平均 70 人が毎日亡くなっています。DTC(診断をするためのテストとカウンセリング)というシステムがあり、技師が関わっているそうです。

現地で 20 年近く暮らしていた先生だからこそ、医療事情以外にもケニアの自然や生活事情、キベラスラムの flying toilet の話などリアルな内容が盛り沢山で、私もケニアに行ってみたい!と思わせるような講演でした。



今回の会報作成にあたり、県立磐井病院 塩尻大輔先生より写真を提供して頂きました。

この場をお借りして、深謝いたします。

また、講演の中で紹介された映像が <http://www.u-pohs.co.jp/baadaye/> でご覧になれます。

先生やご家族の活動の様子が紹介されていますので、興味のある方はご覧になってみてください。

(い わ て)

今回の“つなぐ”は、株式会社イーピーメントの亀ヶ森郁子さんです。

“つなぐ”

盛岡繋温泉病院の遅澤利彦さんからご紹介いただきました、亀ヶ森郁子です。

私は株式会社イーピーメントという企業で、治験に携わり、施設側を支援する役割を担う治験コーディネーターとして日々がんばっております。今回は、少し治験のお話をしたいと思います。

13年前岩手で治験サポートを始めた当時よりは、医療機関の先生方にもご理解いただける環境が増え、様々な領域の治験が岩手エリアでも実施できるようになりました。地方で治験が実施できるということは、患者さんにとっても治療の選択肢が増えることにも繋がり、現在では、治療薬の他に効果が期待できる治験薬を治療として選択する患者さんも多くなってきました。患者さんにとっては、治験に参加することで安全に不安なく治療と向き合えることが一番大切なので、先生方、医療機関の各部署の連携をとらせていただき、治験での治療チーム（患者さん、医療機関、製薬会社）の橋渡し役を担っています。一番うれしいことは、患者さんに治験を選択して治療してみてよかった、と感謝の言葉をいただいた時です。そして、患者さんとの出会いがあるおかげさまで、治験薬のデータが承認され医薬品として発売してされた時です。

まさか、治験コーディネーターを長く続けることになるとは、思ってもいなかったのですが、今は、企業側からですが医療の現場に関わることができ、少しでも地域医療の一助となればと思っています。仕事がOFFの時は、夏は海や湖でまったりして、冬は温泉でまったりするのが楽しみなのですが、寒~くなる前に、ちょっと体力づくりにボルダリングでもやってみようかなあと気になっているこの頃です。



研修会のご案内

平成 26 年度 岩臨技 生物化学分析部門・輸血移植部門 研修会

日 時： 平成 26 年 11 月 8 日 (土) 13 : 40 ~ 16 : 30 (受付 13 : 15 ~)

場 所： アイーナ 7 階 会議室 703

内 容： 1. HBV 検査・診断・治療と最近のトピックス
2. ①血液型検査のテクニック
②不規則抗体検査のテクニック

参加費： 無料(日臨技会員) 1,000 円(非会員)

第 57 回 盛岡地区技師会研修会

日 時： 平成 26 年 11 月 27 日 (木) 18 : 30 ~ 19 : 30 (受付 18 : 15 ~)

場 所： よぼういがく協会 本所 1F ギャラリーホール

内 容： 心疾患患者の 12 誘導心電図を読むときの基本-不整脈編
※10 月 30 日に続き、シリーズ 2 回目の開催となります。

参加費： 無料(日臨技会員) 1,000 円(非会員)

日臨技生涯教育点数： 専門教科 20 点

平成 26 年度 岩臨技 感染制御部門研修会

日 時： 平成 26 年 12 月 20 日 (土) 14 : 00 ~ 17 : 00

場 所： 岩手医科大学 2 号館 5F 3 番講義室

内 容： CLSI 2014 年の変更点とガイドラインの見かた
クリプトスポリジウムの検査法
最近のウィルス感染症について

参加費： 無料(日臨技会員) 1,000 円(非会員)

日臨技生涯教育点数： 専門教科 20 点

★☆☆編集後記☆☆★

小さい頃、信号機が何故対向車線側にもあるのか、ずっと不思議に思っていました。大人になり運転するようになって、やっとその意味がわかりました。

自分の考えは正しいと思いがちですが、気づかない事や間違っていることが沢山あります。多くの人の声に耳を傾け、自分自身を成長させたいものです。北日本支部学会も、その“気づき”のチャンスの一つ。得るものが多い学会にしたいです。(伊藤)

会報「いわて」第 297 号 2014.

一般社団法人岩手県臨床衛生検査技師会

発行人：

会 長： 安保 淳一

事 務 局： 柳本 実

編集責任者： 伊藤 麻貴子

古城 智絵

〒020-8505 盛岡市内丸 19-1 岩手医大中検内

Tel.(019)651-5111 内線 3651 Fax.(019)654-8510

<http://www.iwateamt.or.jp/>

会報専用メールアドレス：

kaiho@iwateamt.or.jp